

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		文化財調査保全活用事業			②事業番号		7618						
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		年度		⑤終了予定年度		年度		○ 設定なし	
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 条例		○ 規則		要綱		○ 計画等		その他	
⑦実施手法		直営		全部委託		○ 一部委託		補助・負担		その他		法令等の名称	
⑧関連予算科目コード		款		9		項		5		目		10	
⑨担当部名		教育部		⑩担当課名		生涯学習課		細目		3		会計	
												一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
①文化財		①文化財の件数		件	
②市民		②人口		人	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
建造物や美術工芸品、記念物など、埋蔵文化財以外の文化財の調査・活用・保護を、所有者と協働して実施する。		①行政が主体となって調査・活用した文化財等の件数		件	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何を狙っているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
所有者と行政だけでなく、市民を文化財の活用の担い手として事業への参画を促すことで、文化財の多面的な活用を実施し、次世代へ引き継ぐための体制づくりを行う。		①住民などが主体となって活用した文化財等の件数		件	
		②			
		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
所有者と市民と行政が協働して文化財の多面的な活用が発展することで、泉南市らしい文化の醸成と魅力発信の効果が見込まれる。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします			
		施策中 1 歴史的資産の活用			
		施策小 2 文化財の活用と保護			

【2】各種指標値、事業費の推移

		指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①		文化財の件数	件	30,000	30,000	30,000			指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②		人口	人	63,125	62,549	61,984			
活動指標①		行政が主体となって調査・活用した文化財等の件数	件	724	318	28			
活動指標②									文化財総合調査による調査件数は、対象とする物件によって変動する。
活動指標③									
成果指標①		住民などが主体となって活用した文化財等の件数	件	49	46	93			
成果指標②									事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③									
事業費	投入人員	正職員	人	0.52	0.22	0.13			
		任期付職員	人	0.00	0.00	0.00			
		臨時職員	人	0.00	0.00	0.00			
	事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	4,177	1,767	1,054			
	直接事業費	千円	882	712	0				
	総事業費	千円	5,059	2,479	1,054				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0		
	一般財源	千円	5,059	2,479	1,054		0		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	市内文化財の現状を把握するとともに、その保護と活用を目的とすること。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	国や府による指定文化財等の所有者や、歴史的資産の所有者において、その維持管理に係る費用負担や相続にかかる問題が増加している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	所有者の同意が得られた一部の文化財において、維持管理費の獲得を目的とした、収益事業の実施を検討している。

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市民にとって文化財は身近なものであることを周知することが可能となり、郷土愛を育むことができる。
②税金を使って達成する目的ですか。(市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	文化財の調査・保護は市の重要な責務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。(他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	現状では調査が必要な件数がさらに増加している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	文化財は一度滅失すると二度と取り返しのできないものである。その保護・活用を放棄することは、市の歴史的遺産をすべて損失することにつながる。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価 **B**

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	文化財の継続的な保護が行えており、今まで知られていない新たな文化財を確認することができた。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。(事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	新たな活用方法を模索し、さらに文化財の認識を向上させるための工夫が必要である。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	文化財を有効に活用するために、福祉、観光などとの連携事業の実施が可能である。

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。(業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	長期の事業継続を見越し、委託内容の見直しを行う。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。(歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	事業内容自体に受益者負担はなじまない。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	D	R1からは事業を統合し、効率的な事業実施をはかる。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	<p>ア. 現状のまま継続</p> <p>イ. 見直しのうえで継続</p> <p>ウ. 終了 ↓ (___ 年まで)</p> <p>エ. 休止 ↓ (___ 年から)</p> <p>オ. 廃止 ↓ (___ 年から)</p>
e	<p><今後の展開方針></p> <p>a. 重点化する(集中的なコスト投入)</p> <p>b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)</p> <p>c. 効率化する(コストを下げる)</p> <p>d. 簡素化する(規模を縮小する)</p> <p>e. 統合する(他の事務事業と統合する)</p>
①改革、改善の具体案、実施年度など	・R1からは文化財保存活用事業に統合し、効率的な事業実施をはかる。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	・事業を主に担当する職員が1名であることから、長期的には人員増が望ましい。